

図書館リレー企画 第1弾！ 鶴岡市の食文化

図書館リレー企画って何？

鶴岡市立図書館では、新図書館の整備に向け、市民の皆様から図書館を自分の居場所や交流の場として感じてもらえるよう、図書館を舞台に、市役所各部の様々な展示やイベントをリレー形式で実施します。第1弾として、「鶴岡市の食文化」をテーマに関連書籍の展示と鶴岡雛菓子作り体験を行います。今回はそれに関連し、食文化創造都市推進課から鶴岡雛菓子について寄稿いただきました。



鶴岡雛菓子は、鶴岡市の食文化を象徴する菓子として、独自に発展し、菓子職人の技術が継承されてきたものです。雛菓子といえば、一般的には菱餅や雛あられが有名ですが、鶴岡では盛菓子（落雁やあめ）や生菓子（練切）が雛菓子の主流となっていて、現在でも菓子職人の手によって、春の節供を華やかに彩ります。

3月3日や月遅れの4月3日の雛祭りに供えられる鶴岡雛菓子ですが、大きく分けると二つの形式があります。一つは京菓子を踏襲したと言われる「盛菓子」です。これは「菊一」と呼ばれる打ち物（落雁）の上に、打ち物のお多福・鯛・ぜんまい・筍などに加え、餡のひざおりや波などを配したもので、菓子というよりも飾り物と言ったほうがふさわしいものです。昔はこの形式の雛菓子が主流になっていましたが、現在では盛菓子を製造する菓子店は少なくなっています。

もう一つの形式は生菓子（練切）で、鯛や海老のほか、桜鱒・庄内柿・温海かぶ・民田なす・サクランボなど、鶴岡の特産物を色鮮やかにかたどったものです。近年はこの練切で作る雛菓子が主流となっていて、市内の菓子店はそれぞれの菓子職人が技術や発想力を高めあっています。

江戸時代から受け継がれ、独自に発展してきた鶴岡の食文化に相応しい「鶴岡雛菓子」。ぜひ多くの方に お雛様の鑑賞とともに、鶴岡雛菓子の技術や歴史、文化を感じていただければ幸いです。
(食文化創造都市推進課)



リレー企画イベント情報

1. 書籍展示
2. 雛菓子作り体験

日時:3月23日(日)まで

日時:3月23日(日)実施 全4部制

①14:00~ ②14:30~ ③15:00~ ④15:30~

会場:鶴岡市立図書館 2階講座室

定員・体験料:各回10人・1個500円

申込方法:①申込フォーム

②電話 0235-35-1185

問合せ先:鶴岡食文化創造都市推進協議会





3月の新着案内



リクエスト・予約開始は 3月14日(金) です

やまびこ号の次回巡回日は

月 日です

◎小説・エッセイ

- あえのがたり (加藤 シゲアキ)
- そして少女は、孤島に消える (彩坂 美月)
- 嵐をこえて会いに行く (彩瀬 まる)
- 楽園の楽園 (伊坂 幸太郎)
- 路地裏の二・二六 (伊吹 亜門)
- 謎は花に埋もれて (宇佐美 まこと)
- 虚傳集 (奥泉 光)
- 骨を喰む真珠 (北沢 陶)
- 風待荘へようこそ (近藤 史恵)
- 氾濫の家 (佐野 広実)
- しらゆきの果て (澤田 瞳子)
- 見えなくても王手 (佐川 光晴)
- 目には目を (新川 帆立)
- 天使は見えないから、描かない(島本 理生)
- 魔法を描くひと (白尾 悠)
- ダンス (竹中 優子)
- 羅針盤の殺意 (知念 実希人)
- 絶対零度のテロル (知念 実希人)
- Nの逸脱 (夏木 志朋)
- 愛と名誉のためでなく (樋口 明雄)
- 泡の子 (樋口 六華)
- 港たち (古川 真人)
- かぶきもん (米原 信)
- 啞う被告人 (前川 裕)
- 溶けるひと (丸橋 賢)
- C線上のアリア (湊 かなえ)
- 色街アワー (渡辺 大輔)
- 老人初心者の青春 (阿川 佐和子)
- 忘れ得ぬ人忘れ得ぬ言葉 (五木 寛之)
- なんちゃってホットサンド (小川 糸)
- そんなときは書店にどうぞ (瀬尾 まいこ)

◎実用書

- 書庫をある (南陀楼綾繁)
- 絵本戦争 (堂本 かおる)
- 「死後生」を生きる (柳田 邦男)
- 孝経 (橋本 秀美)
- 世界一やさしい自分を変える方法(西 剛志)
- 非暴力主義の誕生 (踊 共二)
- 歴史的に考えること (宇田川 幸大)
- 加耶 (仁藤 敦史)
- バルセロナで豆腐屋になった (清水 建宇)
- 47都道府県・日本一百科 (菊地 俊夫)
- 宿帳が語る昭和100年 (山崎 まゆみ)
- るるぶ江戸
- 60歳からの知っておくべき地政学 (高橋 洋一)
- WAR3つの戦争 (ボブ・ウッドワード)
- いばらの道の男の子たちへ (太田 啓子)
- 能登半島記(未完) (前口 憲幸)
- 日本の漬物のひみつ (小泉 武夫)
- 雪の名前 (高橋 順子)
- 揺れる大地を賢く生きる (鎌田 浩毅)
- 世界一シンプルな進化論講義 (更科 功)
- 手術はすごい (石沢 武彰)
- 透析を止めた日 (堀川 恵子)
- 発明が変えた世界史 (祝田 秀全)
- 料理は知識が9割(シェフクリエイティブ合同会社)
- イヤイヤ期のトリセツ (ふじこせんせい)
- 美術館・博物館の事件簿 (島田 真琴)
- 大江戸花形絵師競 (堀口 菜純)
- 漫才過剰考察 (高比良 くるま)
- 女ことばってなんなのかしら?(平野 卿子)
- はじめての作詞 (鈴木 博文)

◎児童書

- みんなが知りたい! 不思議な「カビ」のすべて (細矢 剛)
- ふきのとうずかん (多田 多恵子)
- 動物の今と昔ずかん (土屋 健)
- ダイエット・摂食障害 (松本 俊彦)
- コンビニから社会をさぐる 1 (吉岡 秀子)
- お能探偵ノーと謎の博物館 (石川 宏千花)
- ◎絵本
 - ともちゃんとうし (市川 朔久子)
 - だあれ?だあれ?のひなまつり (えがしら みちこ)
 - くらげのパポちゃん (かこ さとし)
 - 深い海の伝説をさがして (クロエ・サベージ)
 - おばけのケーキ屋さん (SAKAE)
 - チリとチリリさくらのおはなし (どい かや)
 - ここは、ようかいチビッコえん (富安 陽子)

= 今月の誕生鳥 =



コマドリ



全長 14センチ程度でオレンジ色の顔が特徴の小鳥。美しい声でさえずるため、オオルリ・ウグイスと並んで日本三鳴鳥とされている。

～コマドリの関連本～

・『おばけのジョージーコマドリをたすける』
ロバート・ブライト/作

・『コマドリたちが歌うなら』
寺地 はるな/著

新着図書は右記以外にもありますので、お気軽にお声がけください。新刊は、ホームページでもご覧いただけます。

